

# 編集 後記

平成14年度より編集広報委員を務めております久保義弘です。今回、初めての校正および編集後記の執筆で「生理学会誌はこうやってできていたのか。」と、新鮮な気持ちで仕事に臨んでいます。今後とも岡田先生の下、生理学会誌を会員に一層親しみを持っていただけるものにすべく努力していきたいと思っています。皆様どうぞよろしくをお願いいたします。

本号では、種々の情報に加え、高木先生による、題名に「？」のついた「VISION (巻頭言)」, 吉田先生, 篠原先生, 佐々木先生がご執筆下さった「PROFILE」, そして吉岡先生, 北川先生, 宮田先生がトップバッターとしてお書き下さった新企画「AFTERNOON TEA」と、それぞれの先生方のお顔が浮かんでくるようなお気持ちのこもった原稿を多数掲載することができました。お忙しい時間を割いてご執筆下さった先生方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。校正者の立場でじっくりと拝読しますと、一読者として読み飛ばしていた時よりも、執筆者の先生方の個性をずっと強く感じる事ができて興味深く思いました。皆様もぜひゆっくりとお読みになってみて下さい。

早いもので、最終校正を行っている今日は年も

押しせまり12月14日です。今週はノーベル賞の授賞式が行われ、その話題で日本中多いに盛り上がりました。僕はごく親しい友人と以下のような意味合いの話しをすることがあります。

「このごろ調子どう？相変わらずノーベル賞をねらっている？」

(ニコニコしながら)「うん、もちろん。」

(ニヤニヤしながら)「ふーん。僕はノーベル賞をねらうのはやめたんだ。」

「何か他に目標をたてたわけ？」

「うん。それはね、高校の理科の教科書で紹介されるような研究をすること。」

どうです、すごいでしょ？イメージが浮かぶのは、メンデル、ダーウィン、ニュートン、アインシュタイン、ワトソン・クリック。意味することは、「生命科学の研究者として生きていく以上、(高校の理科の教科書に載るといことばで象徴されるような)生命原理の本質的理解につながると自分で確信できる研究をするのだという気概を持っていたいよね。」ということです。いかがでしょうか。

まさに若気の至りのような編集後記になってしまいました。トホホ。

(久保義弘)

\*編集執行委員

## 編集委員

\*岡田 泰伸 (一般生理) [編集・広報幹事]  
赤須 崇 (神経生理) [九州]  
\*入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)  
\*河西 春郎 (神経・分泌生理)  
川上 順子 (感覚)  
北澤 茂 (運動, 認知) [関東]  
\*久保 義弘 (細胞分子生理)  
窪田 隆裕 (腎・体液) [近畿]  
小泉 周 (感覚)  
小西 真人 (筋) [東京]  
\*小山 なつ (感覚, 神経生理) [HP担当]

佐々木和彦 (神経生理) [東北]  
\*定藤 規弘 (心理生理)  
\*渋谷まさと (呼吸・循環)  
菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温) [中部]  
関野 祐子 (神経化学)  
高井 章 (平滑筋, 自律神経) [北海道]  
辻岡 克彦 (循環) [中・四国]  
美津島 大 (内分泌)  
\*村上 政隆 (膜輸送)  
吉岡 利忠 (体力)

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル  
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603 (勤務時間10：30～18：30)  
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp  
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj/